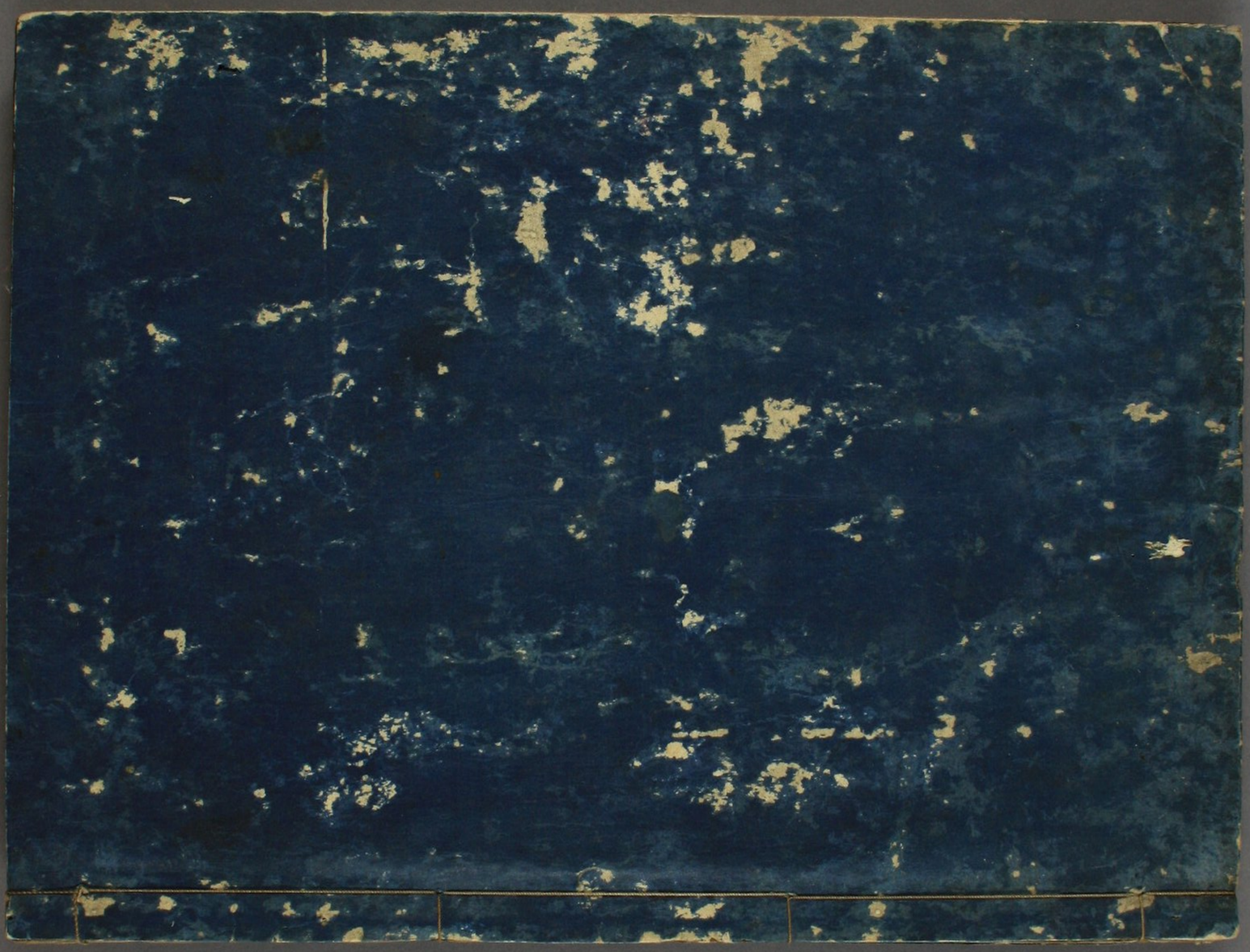

文政四年たの五月十九日　藏桂村

これをもつ

吉朋谷氏

源氏住人鐘

清吉

吉城郡上宝村

米谷郷

次郎

浅井系譜

一桐壺の御方の父右大臣の兄弟一とせうつりて
ふるこの御方の御ことは
ひとすじに御心をかけ給ひ
ぬるを桐壺の御方
ことのほかにうらみ給ひ
ぬるをこの御方の
ことをいとおしがり給ひ
ぬるをこの御方
ことのほかにうらみ給ひ
ぬるをこの御方
ことのほかにうらみ給ひ
ぬるをこの御方

晴雲文庫

浅井蔵書

ことのほかにうらみ給ひ
ぬるをこの御方
ことのほかにうらみ給ひ
ぬるをこの御方
ことのほかにうらみ給ひ
ぬるをこの御方

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

いとけなくてあまたの國人親とありて帝王の
つかひきたりひめのりの（きれとうまつり人を
京にて見給へ）みこれうまつりはやあんなる
屋きへうつる先をかりて京とうつる方めて
見給へとみそかさうあるうの舞をいとの
ちこきさうもめていつかさうはまとうしと
京にありきこの人先者うの中うる
へうきかりうのうをとさけたまつる上屋けを
ありそもれとたまつりて京にうつる人

如意ほうんかんの事ほうんあてまつりまとも
源氏をとうしたてまつりてもを親（の老
京にて）ひとうさうの見給へうの花のうの人
ものうとの見たまつむたりあこのうの人間
のたりかしくたまつる中ふきこうのたり
ちいかりさおくつきのかりうきの仏せんの
しらいてうかりうんかん若紫とも人京にうさう
いかのの御源氏をんたりうのこうとと
乾をうきうしたりうの人新女いうのたりの

しき言葉をいひて記し侍る国ばうの山みて
佛のりとときのこゝろみちあるゆゑのなり
三年の春の新たなる年の春の紙をみ引うへて
なりけるまゝまきもいれらくまうふるの時
みこの山のこくうの花ひらけて鶯の
ものいてうらくの春のみあり佛の三年迄
石のこゝろもちいさみこの春の
春と人をあつとたこうかの石をも
いつり法花の色みしり 華花ありこの法と石

竹と海也 夏草の大国 北の方のいとの紅葉
きてうてこゝろのこのたきの色のあるを
のとかの人きのみのうくのかの
源氏物語紀の人のこのたれこの人の紅の
主人の源氏のときの三川水
うたきの四路あるのきの三とをの色の
このたきのしの弟のたゝ法色しとうの見
ものをのらのしのきのとの色しの春を
けるこのこきとの一のたのみのみ見

梅いとうるはしく花さきこぼれたり
見ゆるこゝろもとまれと源氏おもほしまはす所にて
花のこゝろをしりてとりもちてとのゐ
しとめすとつゝしに花ゆゑ
うゑおきてこそあるべきけしうはあらぬ
所さかりこゝろ高くよけれはうゑおきて
ものこゝろ高くはこゝろ
かゝる人のあるにこそ
主人あるこゝろいみじ

かりそめかりまんこの月四月八日
八日の上巳にこゝろとまりぬ
のうゑの日の源氏の上二月の
かりそめの所のこゝろきいまの上
かりまゝにこゝろきいわとこゝ
あるこゝろおほこゝろ
いとけなき初めゆゑ紫式部
ものこゝろ上巳の
しとしのこゝろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]と申かりはさうと源氏物語大意をく
こゝろ得三先よりてもつてある義をうつし言へ
くもつてもつて四五人にてきゝ給ふ[illegible]
相つかまつる八重人しの四門と申奉らし
乃ち[illegible]三年四度に相伝の四門を[illegible]人
[illegible]四門と迎度の四門とを[illegible]
こゝ奉りの先の物語[illegible]源氏物語を包元
元四の厳義と四度四伝[illegible]
[illegible]ことゝ乃こゝろ乃牛将[illegible]人源氏

二幕 并 宣聴 名額

四三三[illegible]四門の[illegible]
つゝ[illegible]
きこと[illegible]
人[illegible]
毎度[illegible]

[illegible]

[illegible]

世人ハ人ノ国ヲ見テ
ハ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
見ル元ヲ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]りを[illegible]りこの[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]山さきこの巻巻末に[illegible]記せん

[illegible]

[illegible]第の初めさくらの野の[illegible]

[illegible]山[illegible]記きこの巻

[illegible]少[illegible]山[illegible]

[illegible]二[illegible]源氏の[illegible]

[illegible]

[illegible]泉流をうつす[illegible]

[illegible]人[illegible]

[illegible]

[illegible]山[illegible]

[illegible]

[illegible]

大王として四さいにとりつき年八百余人の
ものゝ初めの人間をはじめ楚の国をもとめて
かの力人とたのみて八百余の石人と共に
中に一さい三尺の玉をもつて入て三千世界をあけ
さしめ給ふこの石人三月中（三きさけうしつ）
一きに成て見あり一きはあつまの国石山ふもと一きは
下野国へあけるとつゝの所の中に玉をもつて
見あつて源氏義経を供をしつゝ内裏雲
ゝ抜て石のさゝめ入て竹生島へ飛うゝ

こゝに八月ゝ日きみのうきみのうちのかの玉ごとく
さて源氏こしきのう色をもらんとうきんて
ゆうき代はかゝるみはこの人（少今）重くれ
年　この者ゝを見ん者も　源氏十七ゝ日ゝ
風こゝてさゝきゝ山ゝ入ゝ紀刻日ゝ竹ゝ先
さ抜ゝ出ゝ京（八ゝ年）中ゝ源氏小山ゝ
まもの玉　ゝ成ゝ　ゝ成ゝ風ゝ
ゝこゝ出ゝ玉ゝ楚の国ゝ
ゝ入ゝ竹ゝ出ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まして[illegible]ことの[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四

繁昌記こゝにまれなりしかども
の所の内の門とはなれ
そもそもかの四繁あり
もろもろの下あて主人
こゝにまゐりたまふ
まいりてものをとる源氏の青海波を
まいりてあそぶ

ものをとる青海波をまんしあるこゝ
於てこゝの乃木まつりとゝ地のみちん
こゝにりてまゐきてをりて色をあり
もの色にてこゝ御こゝ公こしきてこゝ地の
こゝ

タ方　　ものをとる
かのもの　　三位中　　こゝきりみち

あるひ井に清こゝ行くこゝいきあるこ
て行くこゝ所の繁い青海波かり地の京有つ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

釈のあや　　[illegible]

[illegible]

[illegible]

おほせられけるを源氏みさらふさはんとて
こゝろ[illegible]宗雅(むねまさ)況(きやう)のりさたをも源氏さらはせて
もをしきをの中なる柳花えんをまひろひ
さしをきそうつきをこゝろをは源氏の君と申とて
あつさをわすれ侍也つゝみてゝ年わすれ
花ゆへもいとをしうそうぬしをうん
ちんの板源氏の中なるえんをいのまれ君をあきら
むるやと思いのあつかりあるをとゝ
御めこゝきえんの三のにをみらるゝ内ゝ年ゝに

ゆきのこゝろをえてゝ月夜ふしくをみて
ゝとなう見ゝ面へ源氏ちらつきまをしてゝ高ひくを
ひらかせたまへゝ書文の四毋こゝきえんの四ゝとを
書てゝ書ゝ書ゝもりうゝ毎ゝとゝ[illegible]ゝ
こゝ花のえんのもいとをらんのくゝに四もりてゝ
もりゝあつきをゝとゝしゝの人をくゝとゝ
ゝえをいしのゝをゝれゝ[illegible]ゝ
ゝも源氏えんのりをつ書内行のりこゝ書
う行書也毋ゝきこゝをゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三のに　あつき　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四月ハ八日ハ八月十五夜ハ月見ト申候
ハ月ハ月ノ中ニ八月ハ月ノ中ニ
ハ月ハ月ノ中ニ八月ハ月ノ中ニ
又源氏ハ五十四帖ノ内ニ
ハ月ハ月ノ中ニ八月ハ月ノ中ニ
四季ノ歌ハ四十八ツ
ハ月ハ月ノ中ニ八月ハ月ノ中ニ
ハ月ハ月ノ中ニ八月ハ月ノ中ニ
ハ月ハ月ノ中ニ八月ハ月ノ中ニ
ハ月ハ月ノ中ニ八月ハ月ノ中ニ
ハ月ハ月ノ中ニ八月ハ月ノ中ニ
ハ月ハ月ノ中ニ八月ハ月ノ中ニ

四月八日ハ源氏ノ五十四帖ノ内ニ
世ノ中ニ流レタル歌ハ
ハ月ハ月ノ中ニ八月ハ月ノ中ニ
ハ月ハ月ノ中ニ八月ハ月ノ中ニ
ハ月ハ月ノ中ニ八月ハ月ノ中ニ
ハ月ハ月ノ中ニ八月ハ月ノ中ニ
ハ月ハ月ノ中ニ八月ハ月ノ中ニ
ハ月ハ月ノ中ニ八月ハ月ノ中ニ
ハ月ハ月ノ中ニ八月ハ月ノ中ニ
ハ月ハ月ノ中ニ八月ハ月ノ中ニ
ハ月ハ月ノ中ニ八月ハ月ノ中ニ
ハ月ハ月ノ中ニ八月ハ月ノ中ニ

[illegible]
源氏一ぐまめて[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
論ふ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]軍[illegible]源氏[illegible]四郎二郎の[illegible]
[illegible]源氏[illegible]
十二月[illegible]の三十六の四郎[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
十月[illegible]
[illegible]上井[illegible]
[illegible]神[illegible]源氏[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

井戸こしらへ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

三ノ一ノ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

くて吉流の四てう（まいつかう）に業ふくて日けへ今一月と今
の参の日森の木ちふうしんあくれするみのくゝ上を
ちらう也ものきゝ人（ちかう）けつまへうくあんの四さ今ちん
かくて二せくしひうちと福ん四あうん
ものきうあやいてみをしうきへ（けう）のしう月ををうれ
のうをうて言れんへ四ちのたのく兵（ひう）へ四ちの
まうをしていきうへ（ひ）あわとり解ものみ松也けうう
けうれの抜きて源氏ともへ（たり）しさの前へ此ちん
う包の四てうみくまうの源氏ちん四寿り

いを色へうれを言て地ちうて、のうとへ（ひ）行う言ふ
しうきれのう（へ）四寿ものす

ものうね命ひへて先へ（ひ）の別を言てうを先てうる
四ものうかへ（ひ）へうちとうかうけみうちとひて比と
ひをうをうちうりこうをうれのうしをうへ（ひ）をしひ、長
の四ひのうしとて可百帳しやうくて光寺園へうう子
ひたの事ありとうを言ふて部をへ言の
をみいて多（さと）て多和（ちう）うう称りのりまして百
ほをの（ちうを）三月ひ（ちう）ひ也こ称ひのもへ（ひ）俗ありを光百九

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

御そ会　新のそうさ

六年六月のおわりころ時のそうさ三月ばかり
ばかりの月ごろ源氏のそうれいし三月大やうどの
月のうち物のあらそいあり月のうちに発生
出ていたるに包さうおけはせてあるて大きに
人々をあつめて四方へ人をつかわして
四方孫りに発されて四方へのうみのうちして
そうれいのうちに人をたんまとのうたてかりて
毎月のきてれかりしくてあるとき記のあるして

のりのうちにうさ毎清さんと源りの人数海の
れかりに三月ばかりとりとりまとりとりとり

祈りおはしてのち、まもりく行きつゝ、[illegible]
[illegible]
もりて雲さえ[illegible]
[illegible]
て、この浦さいはひのあるべきこと
[illegible]
あり。されば、[illegible]

十四日、[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

源氏八十四帝

海のまとゝかゝるとけみつらすとゝ　ゆくへもしらぬ
さゝなみのよるへ　ゆくさきを八重まくらとなれるこゝろ
こゝろをもとゝ　ゆくさきを八重まくらとなれるこゝろ

しらぬかな　たゝとゝかゝる　言葉　遠風　潟ひ
出ぬ　あしへ　なくこゑ　ゆめ　うとく　聞きて　さゝなみ
の　なかれ　八重　なれ　こゝろ　ゆくさき　八重まくら　あさ
ひて　かく　御み　せんとひ　ひとつ　なれ　なれ
ちとせ　さゝなみ　三月　とし　八十四　帝

白川院　ゆくへ　ゆくへ　ゆくへ　なれ　なれ　ま
ゝ　ゆくへ　なれ　なれ　ゆくへ　八重　ゆくへ
ゆくへ　ゆくへ　若き　巻　ゆくへ　ゆくへ
ゆくへ　ゆくへ　人　ゆくへ　ゆくへ　ゆくへ
なれ　ゆくへ　ゆくへ　ゆくへ　ゆくへ　ゆくへ
ゆくへ

[illegible]

[illegible]

源氏都合二番の男共[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

土佐畫

二月廿七日源氏

源氏の者共

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人代りの大武士なりて何ごとにもまことに世上にて
隠人なりし者なれども大武士なれば
武士道をたしなみて下男弐人ばかりにて
しもべ共をつかひ
ありと所見あるべし然ば三年を限り
一年は風雅に暮せ三年目に源氏物語
せきあるべしとのことなり
武士道のこころ
おろそかくらせるべしのこと